

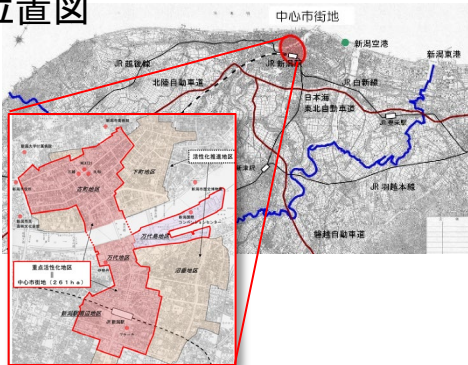
スマート・プランニングをエンジンとしたクリエイティブシティの実現 (新潟市スマートシティ協議会)

- ・地域に潜在する価値「ヒト・モノ(場所)・情報(文化)」を活性化するデータ利活用インフラの実装により、地域と来街者の交流を促す**クリエイティブシティを実現**する。
- ・これまでの取組みを通じ、地域のエリアマネジメントや様々な取組みとのつながりが構築されており、今後は「**スマートシティ運営法人**」の設置により**スマートシティの確実な実装**を目指す。

■ 対象区域の概要

- 名称:新潟市中心市街地
- 面積:261ha
- 人口:16,449人(R2.4.30現在)

位置図



■ 都市の課題

地区の現状

- ・来街者減少による賑わい低下
- ・一方で優良ストックが多数潜在

課題

- ・既存ストック(ヒト・モノ(場所)・情報(文化))の最大活用
- ・点在するストックを結びつけるモビリティ環境の整備
- ・地域や民間による自発的、独創的なコンテンツの創出

■ 解決方法

※赤字部分の実装を目指す

- ・地域ストックを活性化するデータ利活用インフラとエリアマネジメントを実装

地域ストック(ヒト・モノ(場所)・情報(文化))

活用

アドバイザーツール
・スマート・プランニング

スマートシティ運営法人
・都市OS管理

創出・運営

地域事業者

サービス・プラットフォーム
・情報発信
・イベント
・空間活用
・モビリティ 等

データ

まちの賑わい
・来街者及び地域の活動が活性化

サービス媒体
・統合アプリ、センサー等

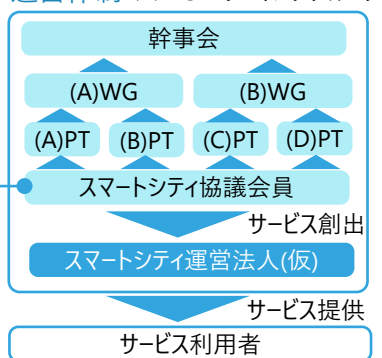
サービス導入

■ 運営体制

協議会構成員

技術提供	民間企業・団体 (33団体)
地方自治体	新潟市
地域におけるスマートシティの担い手	古町:新潟古町まちづくり(株) ※都市再生推進法人 新潟駅・万代:検討中
有識者	新潟大学、 事業創造大学院大学

運営体制



■ KPI(目標)

区域の目標	プロジェクト全体のKPI	目標値(R4年度)
来街者の視点 回遊性の向上及び来街者の満足度やQOL向上	主要箇所における歩行者数・来街者数	R1年度比約3%増加
	区域内の一人あたり滞在時間	2022年度まで 毎年前年度以上を維持
	区域内の一人あたり立寄り箇所数 (参考) アンケート調査による来街者の満足度	※計測方法等を精査
地域・事業者の視点 まちなかならではの自発的・独創的なコンテンツの充実	区域内の空家・空き店舗の自発的な活用件数	2022年度まで 毎年前年度以上を維持
	公共空間を利用したイベントの自発的な実施回数	2022年度まで 毎年前年度以上を維持
	地域企業等による自発的な統合アプリの活用件数 (参考) 区域内における消費額の増加割合	※計測方法等を精査

スマート・プランニングをエンジンとしたクリエイティブシティの実現 実行計画

- ・統合アプリ,スマート・プランニング,タッチポイントを基盤に地域ストックを活かす様々なサービスプラットフォームを実装。
- ・スマートシティ運営法人の設置により、現行の取組みについてはR5年度からの本格実装を目指す。
- ・実装された基盤やサービス・プラットフォームを通じ、地域と来街者の交流を活性化し、まちの賑わいを創出する。

スマート・インセンティブ R3検討

地域の特性を活かした多様なサービスを来街者の手元に

地域との連携

商店街や観光・MICE団体と連携



スマート・ウェルネス 企画検討中

健康・美容につながるアクティビティや食等の地域ストックを来街者に発信

地域との連携

商店街、有識者、医療団体との連携を予定

食文化



スマート・シティガイド R3検討

地域に潜在する伝わりにくい魅力を積極的に来街者に発信

地域との連携

地域ガイド団体と連携

R2導入 ⇒ R3検討(発展)

統合アプリ



ICTプラットフォームを通じ、地域の魅力や人とのマッチングを促進

スマート・コンテンツ R2実証 ⇒ R3拡充検討中

地域の特性を活かした集客コンテンツを実施し、ICTを通じて地域への波及効果を創出

地域との連携

商店街と連携

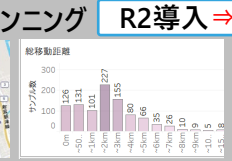
河川敷ワーケーションオフィス(R2実証)



アプリやタッチポイントを通じ、レンタサイクルの再配置や賑わい創出等、まちづくりに積極参画

スマート・プランニング R2導入 ⇒ R3発展

道路や公園等の空間を接点とした地域と来街者の交流が活発化



スマート・レンタサイクル R2実証 ⇒ R3検討(発展)

ICTの活用によりレンタサイクルの利便性が向上し、運用も効率化

地域との連携

レンタサイクル運営団体と連携

シェアサイクルの導入



スマート・空間活用 R3実証

エリア内の様々なスペースの活用を促進

地域との連携

地域で活動する個人や団体と連携

地域による道路空間の活用



- 来街者 (Visitor)
- 地域事業者・団体 (Local Business/Group)
- スマートシティコミュニティ (Smart City Community)
- サービス導入 (Service Introduction)
- サービス提供 (Service Provision)
- データ (Data)
- タッチポイント (Touchpoint)

※1：日本海縦断観光ルートプロジェクトHP ※2：古町花街美食めぐりHP ※3：新潟市中央区役所HP ※4：新潟市食文化創造都市推進会議HP ※5：新潟市HP

これまで実施した実証実験の概要： 公共空間等活用実証実験（通称：ニキロモール）

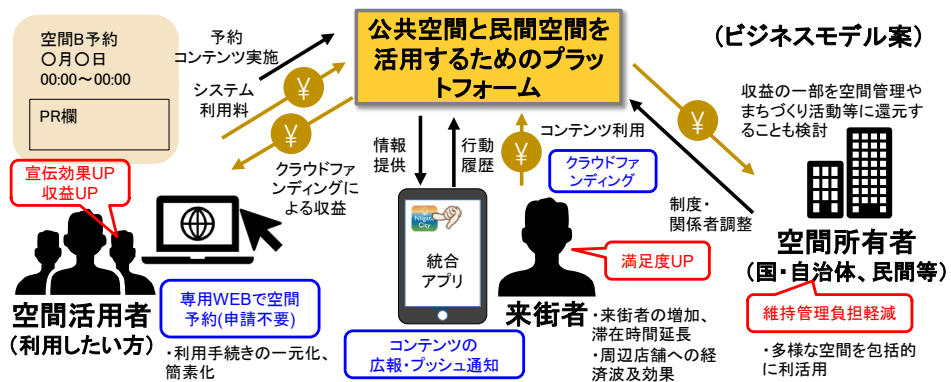
- ・空間資源の活用をコーディネートし、“まちなか”の賑わい創出とブランディングする取り組み。
- ・公共や民間など多様な主体が所有する空間を包括的に活用するための仕組みづくり（各種既存制度の活用や連携も含めた各空間所有者の理解・協力を得ること）。
- ・ICT技術による空間情報の可視化や、活用手続き（使用許可・申請等）を簡素化する仕組みを導入。

■ 実証実験の内容

仕組み・サービスの具体化（ビジネスモデル、既存制度や法規制との関係整理、ルールづくり等）

特定の空間を対象とした試行実施及び評価（対象空間や活動数を限定して実施）

サービス提供環境の構築と評価



■ 実証実験で得られた成果・知見

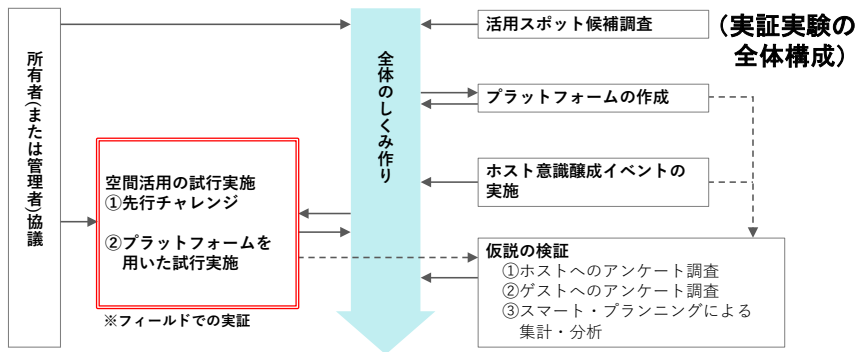
①：公民にかかわらず多様な主体が所有する空間を包括的にまとめ、その活用を促す仕組みを構築することができる
 ⇒ ホスト・所有者・ゲストの各主体において、一定の割合（約80%以上）で取組への理解と賛同
 ⇒ 想定した仕組みでの取組が実施できることを試行により実証

②：空間の活用手続きを一元化することで、所有者の事務作業の省力化や維持管理にかかる負担軽減につながる
 ⇒ プラットフォーム活用により空間活用の手続きの一元化が可能であることを実証
 ⇒ 運営者が審査・調整する仕組みにより事務作業の省力化につながる。

③：これまで使われていなかった空間の活用により、従来のコンテンツの高度化や新たなコンテンツの創造につながる
 ⇒ 新たな発見や創造など、コンテンツの高度化を見込むことができる。

④：スマート・プランニングによるまちづくりに有効な新たなデータを取得することができる
 ⇒ ゲストの行動データを収集し、スマプラに活用することは技術的に可能。
 ⇒ コンテンツを実施する場での新たなデータの取得が可能

⑤：来街者の数及び滞在時間が増加し、地域全体への経済的な波及効果が期待できる
 ⇒ コンテンツは立ち寄り先の1つになり、来街機会や滞在時間を増やす効果が期待できる。
 ⇒ ゲストからの投げ銭による収入確保が期待できる。
 ⇒ 空間の位置やコンテンツの種類に応じ、地域経済への波及効果が期待できる。



今後の取組：取組みへの地域参画やサービス利用者の拡大

- ・R3年度取組みを通じ、本取組みの基盤部分(仕組み及びサービス提供ツール)の基礎的な整備が実現し、本取組みが最終的に目指す方向性等が関係者間でより具体化された。
- ・一方でサービス利用者や地域の個々の事業者・団体等との連携がまだ希薄であり、今後はこれら地域のステークホルダーとの連携を拡大・強化し、「スマートシティ・コミュニティ」の形成・拡大を図る。

■ 実証実験で得られた課題

これまでの取組みの成果

- ・空間資源の活用をコーディネートし、“まちなか”の賑わいを創出する仕組み・サービスの構築。
- ・コンテンツ利用者から、「統合アプリ」を通じて「スマート・プランニング」で活用可能な人流データの収集。

実装までに残された課題

- ・利用頻度向上に向けた施策の検討・実施
- ・実施スポット及びコンテンツメニューの絞り込み
- ・空間利用手続きに係る規制緩和等も見据えた制度設計
- ・運営体制の確立と事業採算性の確保
- ・運用の効率化(運営者側の負担軽減方策) など

※実装(持続的運営)に向けた体制構築が必要

目指す到達点

- ・地域の事業者、団体、個人等が本取組で実装したサービスを活用し、自発的なサービスやコンテンツを発信
- ・スマートシティの取組が地域のエコシステムに組み込まれ、自走化

■ 今後の取組：スケジュール

項目	実行計画(第1期)			II (次期)
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度以降
ツール開発スケジュール				
統合アプリ	アプリ整備 機能追加	SNS連携・機能拡充	他施策との連携で 機能拡充	順次 本格稼働
スマブラ	エリア拡張 機能の拡張	他施策との連携で機能拡充		順次 本格稼働
都市OS	実行計画	各種取組みとの連動により段階的に構築		順次 本格稼働
タッチ ポイント		基盤整備	基盤拡充	本格稼働
施策導入スケジュール				
情報提供	実行計画	実証実験 (地域ガイド連携)	本格稼働 ※内容は随時拡充	
インセン ティブ	基盤整備	実証実験		本格稼働
集客 コンテンツ	実証実験 (水辺空間活用)	実証実験 (アプリ等連動)	コンテンツ拡充	本格稼働
レンタ サイクル	実証実験	運営効率・高度化	順次本格稼働	
公共空間等 の活用	実行計画	実証実験(屋外空間) 実証検討(空き家等)	実証実験(空き家等)	順次 本格稼働
ヘルスケア	実行計画	取組企画	実証実験	本格稼働
MaaS	実証実験(別途取組み)		モビリティ 相互連携、 アプリ統合	本格稼働
モビリティ	実証実験(別途取組み)		モビリティ 相互連携、 アプリ統合	本格稼働